

健康ニュース

発行：健康ニュース DIAMOND BAR, CA

「痴呆症」「健忘症」

脳を若返らせる物質 PS (ホスファティディルセリン)

PSの「痴呆症」への高い効果を証明する膨大な研究

PSと痴呆症の研究はスタンフォード大学やベルギーのリージェ大学の医師などアメリカとヨーロッパの機関が中心に25年にも及ぶ膨大な本格的研究がなされた。しかも多くは動物実験ではなく実際の患者による臨床実験である。中でも16の研究は「2重盲検法」という非常に権威の高い実験方法が用いられた。その研究の全てで驚くべきPSの効果が証明されたのである。

脳の働きが12年も若返った！ 「痴呆症」が重症ほど高い効果があった！

Dr. Crook, Memory Assesment Clinic とスタンフォード大学との共同研究

1991年50-75才の重症の痴呆症を含む149人に対し12週間の実験が行われた。PSの使用量は1日300mg、100mgづつ3回である。テスト内容は電話番号の記憶、物を置いた場所の記憶、文章の記憶、読書時や会話時の集中力についてであった。実験は大成功で、記憶力を換算すると12年も若返ったという結果が現れた。実に**64才の頭脳が52才の頭脳になったことになる**のである。Dr. Crookは「この効果は他の医師にとっても驚くべきものである」と報告している。また**症状が重い人ほど高い効果があった**ことも特筆に値する。

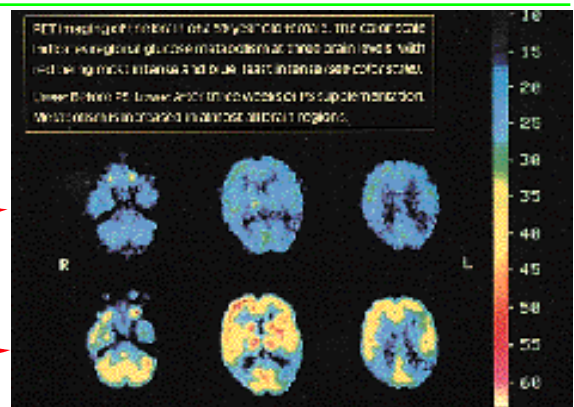
PSとは？

PSとは脳の働きに重要な物質（リン脂質）で脳の細胞膜に多く含まれる。特に記憶力、学習能力、神経伝達や新陳代謝、感情の安定に重要な存在である。その他、健康な脳細胞の維持のためにも大切な役割を果たしている。45才を越える頃から不足し始める。

右図は59才女性の3段階の頭脳の断面図。赤、黄、青の順でエネルギーの高さを示す。

上図: PS服用前。
全体にエネルギーレベルが低い。

下図: 1日500mgづつ服用3週間後。
頭部全体が非常に活性化されている。



PSは40代後半から体内生産量が減少。記憶力も衰え始める。

PSは食品にも含まれているが非常に少量なため体内で生産される。ただ、それには複雑な過程と大量のエネルギーを必要とする。そのため途中で何かの必要な機能が衰えていたり、十分なエネルギーが得られないと生産は低下する。

45才を越える頃からは体内生産量が低下するため補助食品として補給することが望ましい。補給されたPSは消化吸収された後、速やかに脳細胞に吸収される。

補助食品として記憶力回復に最も求められていた栄養素の一つ

世界中の25年以上の大がかりな研究とともに補助食品としての製造が待たれていたが1995年に米国で生産に成功し、誰もが補助食品として飲めるようになった。

PSとイチョウ葉。共に代表的な頭脳の栄養素だが働き方が違う。

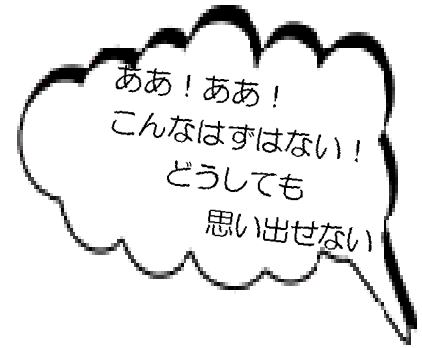
PS 本来、脳になくってはならない重要物質として脳の働きの重要な役割を果たしているが、年齢により不足し始める。特に重度の痴呆症にも効果が高く、権威ある研究により実際に頭脳の働きが12年も若返っている。36もの権威ある正式な研究があり痴呆症患者に確かな効果を上げている。

イチョウ葉 頭脳の働きを高める効果で数年来ヨーロッパでは薬として最も愛用されている。働きはPSとは異なり頭脳への血の巡りを良くし酸素の供給を高める。動脈硬化や炎症などの血液循環傷害による頭脳傷害に特に有効。また品質によって効果に大きな違いがある。

「2重盲検法」とは？

2重盲検法とは新薬などの効能確認のために病院などで実施される厳密な医学的臨床実験方法で多大な時間と経費を必要とする。そのため健康食品ではあまり行われなれないのが普通である。

一般にはグループを2つに分け一方のグループには効果を試したい薬を与え、もう一方のグループにはプラセボ（効果の無い薬）を与え、結果を比較する。1993年のPSの研究では実に425人が実際の研究対象にされるという大がかりな研究であった。



こんな方へ

- * 痴呆症や健忘症の人
- * 記憶力や集中力の低下を感じる人
- * 感情の不安定や頑固さを感じる人
- * 管理職などストレスが多い人
- * 酒や薬害で頭脳の衰えの早い人

飲み方

最初の2カ月は1日300mg以上を2～3回に分けて飲む。

その後は1日100mg～200mgを維持のために服用する。

効果の感じ方

効果を認識し始めるのは1カ月ほど続けた頃からである。

「忘れた」と言う回数が少なくなっていることに気付いたりする。

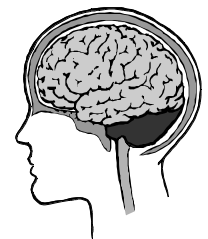
安全性

全て原材料が食品であり 全く安全。

脳の若さと健康こそ幸福の基盤。

これまでは「物忘れがひどくなった」「頑固になった」「落ち込みやすくなった」と言われても老化現象として黙って受け入れるしかなかった。

中年以降になったら頭や性格が悪くなり始めると宣告されていたようなものである。しかしこれでは人生の充実期を幸せに送れないばかりか働き盛りの人、ビジネスマン、一家を支える人などにとっては死活問題であった。



脳の働きを若返らせる物質PSの発見で、中年以降の人生にも素晴らしい時代が来た。